

令和5年度事業計画書

自 令和5年4月 1日
至 令和6年3月31日

社会福祉法人 晃宝会

目 次

はじめに	1
特別養護老人ホーム あじさい園	2
ショートステイ あじさい園	4
医 務 室	5
管理栄養士・調理師	6
歯 科 衛 生 士	8
特別養護老人ホーム あじさい園宝	8
ショートステイ あじさい園宝	12
グループホーム あじさい園	12
デイサービス あじさい園	13
ケアハウス あじさい園	14
居宅介護支援事業所	15
オレンジカフェ すいもん	16
ニコニコタクシー (介護輸送サービス)	16
ハーネ 中御門	18

社会福祉法人 晃宝会
理事長 松村圭祐

令和5年度 法人目標 「和」

人と人との互いに尊重しあい、共により良く生きていくために「和」の心を大切にして、安寧な日常生活が継続できるよう努めたいと思います。

新型コロナウイルス感染症や、ロシアのウクライナ侵攻により、各国の経済はダメージを受け、さらに社会を不安定にするできごとも、たびたびおこり、場合によっては、非日常が日常になっているような印象さえあります。

世界がそのような中、日本においてより深刻な問題は、超高齢化、人口減少です。それによる、マーケットの縮小、人手不足は、組織としても、個人としても、目をそらすことはできません。

今、何をなすべきか、を私達一人ひとりが、真剣に考え、自覚をもって行動したいと思います。

晃宝会としましては、得意分野（認知症ケア、口腔ケア、医療と介護の連携）に磨きをかけ、これまで以上に質の向上を目指さなければならないと考えます。職員一人ひとりのスキルアップを図り、晃宝会としての組織力強化を確実に進めます。

2022年の高齢化率は29.1%、2050年には38%まで上昇します。そのため、さまざまな高齢者の課題に対して、相談支援を包括的に提供するシステムが必要であり、社会福祉法人としての役割は今後ますます広く多岐に渡ることが予想され、私達は覚悟をもって精進しなければなりません。

だからこそ人としての原点である「和」の心を大切に、協力の姿勢を組織として示し地域共生社会の実現に取り組んでまいります。

令和5年4月、新規事業としてグループホームあじさい園宝(認知症対応型協同生活介護)を開設いたします。建設準備中にお世話になりました関係者の皆様、心より感謝しお礼申し上げます。また、ハーネ中御門(障がい者グループホーム)は令和5年2月に一周年を無事に迎えることができました。日頃のご指導ご協力に感謝申し上げます。

技能実習生はあらたにベトナム人2名が1月に着任、6月にはミャンマー人2名も来日されます。すでに4年目を迎えた技能実習生5名は努力を重ね特定技能外国人の資格を取得しました。今年度も、感謝・機転・謙虚・笑顔・清潔の5つの基本理念を胸に刻み、施設サービス在宅サービス共に責任をもって努めます。

特別養護老人ホーム あじさい園

法人目標 『和』について

『和』には、“和を以て貴しとなす”という言葉があるように、“和”を大切にする事が重要です。職員が相手やご利用者の事を尊重し、認め合って強調しながら成長出来るように努力します。また、ご利用者の異変にいち早く気付ける様に目配り・気配りを行い、医師・看護師とも連携を図り援助していきます。他に、『和』は“なごみ”とも読むことが出来、職員もご利用者も和やかな雰囲気の中、日々笑顔で過ごして頂ける様に努めます。

パーソンセンタードケアのために

- ・尊厳、自尊心を傷つけないようにご利用者に対し職員一人ひとりが笑顔と温かい心で支援・援助を行います。
- ・ご利用者、ご家族、職員の思いが実る、「笑顔が増えるケアプラン」を立案します。
- ・日常の些細なご利用者からのサインに目を向け、認知症をお持ちのご利用者の苦手な所もお手伝いさせて頂き、その人らしく生活して頂ける様に援助します。
- ・看取りケアについては、医師からの指示に従って苦痛を和らげながら、これまで続けてきた生活が、自分らしく穏やかに過ごして頂ける様に日常生活のお手伝いをさせて頂き、心身の状態変化に応じて形を変えつつ最期の最期まで継続できるよう切れ目なく支援いたします。
- ・ご利用者が室内で行える身体を使った四季折々の行事を行い、笑顔で過ごし、楽しく生活して頂けるよう支援いたします。
- ・ご利用者の些細な状態変化にも目を配り、職員が自信と誇りを持って対応し安心して頂ける支援を目指します。
- ・毎日の業務を行う中での気づきを会議の議題として話し合い、必要に応じマニュアル等の改善を行い、ご利用者にも職員にも負担がかかり過ぎることのない勤務体制づくりを目指します。

過ごしやすい空間づくりのために

- ・心地の良い自然の光や風を感じられる、明るく清潔で居心地良い安らぎやぬくもりを感じて頂ける様な空間作りを目指します。
- ・爽やかな気持ちのよい挨拶、丁寧で美しい言葉かけを励行します。
- ・ご利用者に、その人らしい美しいお姿で過ごして頂けるよう整容に気を配り、職員は好感を持って頂ける清潔感のある身だしなみを心掛けます。

『職員』という環境を整えるために

- ・爽やか挨拶、丁寧な対応と思いやりのある言葉かけをはじめとする、思いやりあふれる接遇を継続していきます。
- ・新型の入浴機器、より使いやすいスライディングボード・電動ベッドを活用し身体への負担軽減及び職員一人ひとりが腰痛予防につながる介護技術の習得が出来るよう啓蒙します。
- ・職員によって能力や性格などで個人差はありますが、ご利用者や職員同士でも相手を思いやり、相手の立場になって考え行動出来るように研修や勉強会で介護の意味や倫理を伝え指導します。

・年間目標を軸として、毎月の目標を掲げ職員全員で達成できることを目指し、毎月の達成状況を把握します。職員それぞれのレベルに応じ助言・指導を行い意識向上・スキルアップを目指します。

・経験の長い職員は、職員一人一人に目配りし普段からの声掛けや面談等で悩みを聞き助言を行うことで、ストレスを溜めず誰もが生き生きと活躍できる職場環境を目指します。

安心して過ごして頂くために

・新型コロナウイルス感染症も4年目になりますが、感染者数は増減を繰り返しています。利用者様、職員共にワクチン接種していますが、まだまだ感染力が強く、安心できる状況ではありません。気を緩めることなく感染症対策の徹底、委員会活動の強化、情報収集、勉強会を行い対応力の強化に努めます。

出勤時、業務に入る前に手指消毒、業務前の検温、食堂・居室・廊下・車椅子など手に触れる場所全ての消毒を毎日行います。

・感染状況や情報を元にマニュアルを改訂し、実際の取組に落とし込んでいきます。

・職員はプライベートでも必要以外の外出を控えます。

・食事以外は、ゴーグル・マスクを着用し飛沫からの感染予防対策を行います。

・感染者が発生した場合、濃厚接触者の特定がしやすいように排泄介助・移乗介助・食事介助を行った時は名前の記入を行います。

・会議はソーシャルディスタンスを保ち、3密を避け、リモートなどを実施し少人数で行います。

・更衣室での私語は慎み、寮母室での食事は黙食とします。

・会話をされる利用者様同士はアクリル板を接し飛沫防止に努めます。

・スタンダードプリコーション（標準予防策）を基に介助前・介助後は手洗いを行い1ケア・1手袋・手指消毒を徹底し感染症予防に努めます。

・新型コロナウイルス感染症等が蔓延した場合の事業継続計画（BCP）の策定に取り組んでいきます。

・5～6月には食中毒の予防として毎食前の手指消毒を徹底し、食べこぼしや口の周りなどの衛生面に配慮いたします。職員には、「付けない・増やさない・殺菌する」の予防の3原則を心掛けるよう啓蒙し予防に努めます。

・1～3月には、インフルエンザ・ノロウイルス等の予防に努めます。流行前に勉強会を行い職員に周知徹底します。もしも感染者が出た場合も、感染が拡大しない様職員が媒介者にならない様マニュアルに基づいた対応を行います。また、日頃からトイレの手摺りや便座の消毒を行い清潔保持に努めます。

・日頃から居室、車椅子、ベッド周りの清潔保持に努めます。

・看護師と連携し利用者様の状態観察を行い、些細な変化にも申し送りを行い健康管理を行います。

・面会については、いまだ制限させていただいていますが、ご家族にも毎月のお手紙を通じて近況報告をさせて頂き信頼関係にも努めてまいります。

◎事故防止対策については、引き続き「セーフティーマネジメント」（ご利用者の立場からアクシデントを未然に防ぎ、安全を確保するための管理体制）にて行います。

◎食事箋（食事形態）の検討や変更については、ご利用者の状況に合わせてタイムリー

に行えるように致します。

◎歯科医師、歯科衛生士の助言のもと、利用者様個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、いつまでも美味しく食事を楽しんで頂けるよう支援します。

◎新しい介護機器や備品などを試し、ご利用者が快適に過ごして頂くために有益な物を積極的に取り入れます。

稼働率の安定を目指して

- ・ご利用者の体調管理と事故予防対策を丁寧に行います。
- ・入所検討会議における、次期入所者検討を効率化し、常に数名の内定者を確保しておき、退所後の空床期間 14 日以内を目指し、年間を通じて毎月 53 床の稼働平均を目標とします。

経費節減を目指した取り組み

- ・エアコンや電灯のこまめなスイッチオン/オフにて適正使用に努め、備品を丁寧に取り扱います。
- ・洗剤等消耗品の適量発注と無駄のない使用を行い、節水にも心掛けます。
- ・ご利用者に気持ち良くお過ごし頂ける事を前提とし、オムツ・リネン等の効率的な使用を目指します。常にアンテナを張り、安価で良い物があれば都度見直し、業者や出納責任者とも連携を図り、経費節減に努めます。
- ・発注データの価格変更など定期的に更新し管理をします。また、同データを使用している他部署とも連携を図り、管理できる体制を構築します。

ショートステイ あじさい園

今年度法人目標「和」を基に以下の取り組みを実施致します。和とは「和む・和らげる・仲むつまじくする・仲よくする・親しむ・調和する」等の意味があります。

ショートステイでは温かい心と温かい対応でご利用者一人ひとりに寄り添い不安を和らげ、親しみやすい環境作りに努めていきます。

また、ご利用者の心身の機能の向上・維持並びにご家族の身体的及び精神的負担の軽減を図れるよう職員間や他事業所・地域の皆様と力を合わせ、昨年に引き続き One Team になってより良い施設作りに努めていきたいと思っております。

サービス提供について

私たちはご利用者やご家族・地域の方々に支えられていることを念頭に入れ、目配り・気配り・心配りと機転をきかし、ご利用者のどんな些細なニーズにも耳を傾け、思いやりと笑顔を忘れず対応してまいります。コロナ禍で季節ごとの催し物やレクリエーションの企画・実施が困難になり、感染防止の対応や規定・制限等でご利用者・ご家族にはお手数をおかけすると思っておりますが「また利用したい」と言って頂けるように職員一同精一杯のおもてなしをいたしていきます。また、職員自身も新しい事にチャレンジする気持ちと向上心を持ってスキルアップに努めていきます。そして、常に安定した稼働率（90%以上）を目標に、健全な運営の維持を目指します。

事故・感染症について

安心・安全で施設生活をおくって頂けるようご利用者一人ひとりの日頃の状態を把握し、身体の変化を見逃さず、迅速な対応と、ご家族・担当ケアマネジャーとの連携や医療（看護師等）との連携を密に図ってまいります。職員は、常に「もしも」・「いざ」とい

う時の対応・行動が迅速かつ的確に行えるように、適切な知識と技術の取得に努めます。常日頃、事故の防止に努め、ヒヤリハットの分析を行い、事故発生時には、報告・連絡・相談の上、早期対応及び再発防止に努めます。感染症流行時期には、ご家族にお知らせの手紙を配布し、注意を呼びかけ、また広報誌「ゆめあじさい」においても感染予防の啓発やご理解をお願いします。感染症対策では、勉強会・会議を通して、職員への意識づけを徹底し、平常時から予防に努め、ご利用者が安心して生活出来る環境作りを行います。

送迎について

送迎時のトラブルや事故がない様に、常日頃から報告・連絡・相談を意識して、ご利用者の方々が安心・安全に利用して頂けるように努めます。

事前のアセスメントを、細かく行い、周知、理解することで、事故の予防に努めていきます。

医 務 室

医務室の基本的な役割は、ご利用者の健康管理と職員の心身の健康状態の把握とアドバイス、感染症の発症予防と蔓延防止対策、事故防止対策、産業医と安全衛生委員との連携による、職員の労働災害の予防対策及び職員のメンタルケアに努めることです。

1. 健康管理

① 健康状態の把握

- ・毎日のバイタルチェック、申し送り、巡回で入所者様の健康状態を観察させていただきます。
- ・多職種との連携により、統一した視点で日常の健康チェックを行います。
- ・異常の兆候を早期に発見し、医師への連絡、指示を仰ぎ適切な処置をさせていただきます。

② 健康診断

定期健康診断、各種検査を行い、医師との連携により適切な看護、医療へとつなげていき、健康状態を把握させていただきます。

③ 健康の維持

個々の健康状態に適した運動、食事、休養の必要量を判断し、介護職員と協力し実施できるようにさせていただきます。

④ 健康教育

- ・健康についての正しい知識を普及し、老化と共存し、穏やかな生活ができるよう、また、老いの受容を精神面から援助させていただきます。
- ・疾病予防のための知識の普及に努めます。

⑤ 受診への対応

受診の必要性を判断し受診計画を立て、多職種の協力を得て受診につなげ、付き添い介助を行います。

⑥ 職員も心身ともに健康でなくてはならない、その為の健康管理を行います。

個人に関わる事に関しては、プライバシー保護に努めます。

2. 健康障害を持った高齢者への対応

① 疾病を持った高齢者への看護

疾病が老化とともに確実に増加し、医療を必要としています。

- ・疾病の予防と早期発見、合併症の予防
- ・疾病の早期治療援助

② 認知症高齢者への対応

認知症の高齢者は、高齢者自身が悩み苦しむだけでなく、周囲の人々を巻き込む事が多い。「異常行動」「問題行動」を起こす人としてとらえるのではなく、援助を求め、必要としている人間として、認知症高齢者に目を向ける中で、ケアの在り方を考えます。

- ・認知症高齢者の精神状態を正しく把握させていただきます。
- ・身体、精神、環境の相互関係を踏まえます。
- ・介護職員への助言、研修を行います。

3. 感染症予防について

- ・社会全体と県内の感染症の状況を常に把握し、先手をうてるよう、各委員会と協力して、感染症予防と蔓延防止に努めます。

令和5年度法人目標 「和」

和とは、仲良くする事、調和する事、協力する事、結ぶこと、和らぐ、穏やかな、と言う意味があります。私たちは人を相手に仕事をさせて頂いています。

看護の仕事とは、患者様の日常生活への支援や、医師の指示に基づき、安全で効果的に治療を受けられるように、専門知識を持って治療をサポートすることはもちろんの事、患者様が痛みや不安などの心配なく、穏やかでいることが出来ることも支援していかねばなりません。私たちは、和の心を持ち、引き続き昨年度の目標でもある **One Team** 共に歩もう温かい心での気持ちで、晃宝会職員協力し、助け合って努めさせていただきます。

令和5年5月8日より新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行と決まりました。行動制限、医療機関の対応、公費負担、感染者の報告、マスクの着用、ワクチン接種など対応が変わってくると思うので、国や自治体から情報収集し、先生方からの助言を頂き、感染症委員会で協議し対応していきます。

管理栄養士・調理師

法人目標「和」について

「和」には、仲よくする、互いが相手を大切にし、協力し合う関係にあること、などの意味があります。ご利用者に平穏な日々を過ごして頂く事は、私たちの願いであり、安全に楽しく食事をして頂き、それが健康維持につながるようと思いを込めながら食事提供に携わっていきます。また、「やわらぐ(和らぐ)」「なごむ(和む)」といった意味で用いられる事から、ご利用者に直結する食事、和らいで頂く、和んで頂けるよう常に意識しながら努めていきます。

旬の食材を使い、季節感のある行事食など、栄養バランスよく色彩豊かな食事の提供を行うと共に、ご利用者一人ひとりのニーズに答えられるよう、栄養士・厨房職員間の「報・連・相」をスムーズに行い、職場の「和」を大切にしていきたいと思えます。和の心「思いやり」「おもてなし」といった相手を思いやる心を持ち、日頃からご利用者や職員と接する事が出来るよう心掛けます。

「食事提供について」

・四季折々の季節感あふれる食事や、行事に伴う特別な食事を提供します。彩り豊かな、手作りを主体にしたメニューを検討し、個人の嗜好に合った内容、食事形態で、家庭的な食事を提供します。嗜好調査、聞き取りなどによりご利用者の希望に添えるよう努めます。

・一日でも長く食事をおいしく食べて頂けることを目標に、残存している咀嚼嚥下機能を最大限に活かせるような食事提供に努め、急な体調不良時などは各部署と連携し、状態に応じて柔軟な対応を行っていきます。

・食事が「安心・美味しい・楽しみ」であるかどうか検討を行い、課題解決を図っていきます。また、月1回給食会議を開催し、より良い食事を提供するために意見交換を行い、改善に努めます。

・外部研修など積極的に参加し、新しい知識の習得や技術の向上に努めます。ご利用者が安全に食事を召し上がって頂けるよう、食べやすい調理方法を検討します。

・地域福祉サービスの一環として、地域のご利用者に栄養バランスの取れた配食サービスを行います。

栄養ケアマネジメントについて

・多職種協同による栄養ケアマネジメントの実施と見直し、日々の食事摂取状況、体重変化や咀嚼、嚥下機能などからニーズを把握すると同時に、ご利用者が要望を伝えやすい環境作りに努めます。また、適した栄養ケアを行うために、ご家族・他部署との連携を図りながら栄養スクリーニング・アセスメントを行い、個別プランを実行していきます。

・医師の指示のもと、カンファレンスを重ね、検査データや身体状況をもとに、個人に合った食事提供を行い、低栄養の予防・改善に努めます。

・看取りケアや食事量が低下しているご利用に対しては、栄養補助食品の種類や提供方法など、ご利用者一人ひとりの状態に合わせた計画を作成します。

・個々のニーズに寄り添いながら食事を日々の楽しみにして頂き、「笑顔が見たい」「口から食べる楽しみを長く続けてほしい」という志を持ち、ご利用者の気持ちに添えるよう、サービスの向上に努めます。

災害、感染症対策、衛生管理について

・各部署との情報共有を図り、感染症などによる体調不良者が出た場合、使い捨て容器の使用などの対応を行い、厨房への感染源持ち込みを防ぎ感染拡大予防に努めます。

・自然災害や感染症発症時にも安心・安全な食事が提供出来るよう、非常食や使い捨て容器を備蓄し、ローリングストックにより無駄が無いよう常に見直しをかけていきます。また、刻み食やペースト食のご利用者にもおいしく食べて頂ける食事形態の非常食を用意します。

・災害時・集団感染時の対応を他部署と共有し対応強化に努めます。

・ご利用者の方に良好なサービスを提供するため、職員の健康管理に努めます。

・「大量調理マニュアル」に基づき、日々の清掃をはじめとする衛生管理を徹底し、食中毒・感染症予防に努めます。また、内外研修などを通じ衛生管理に関する知識向上に努めます。

歯科衛生士

令和5年度法人目標 「和」

平成8年、あじさい園開園当初より、晃宝会は口腔ケアに力を入れてまいりました。口腔ケアは狭義の口腔ケア（ブラッシングなど機械的な清掃）と広義の口腔ケアがあり、晃宝会がすすめているのは広義の口腔ケアです。摂食、嚥下、咀嚼、発音、審美性の維持や、歯科治療、リハビリテーションが大切で、唾液分泌を促す、しっかり咬む、ゆたかな表情と笑顔、など心身の健康保持には欠かすことはできません。

たとえば唾液の働きをとりあげると、

消化作用（よく咬むことにより、アミラーゼという消化酵素が分泌される）

溶解作用（舌にある味蕾とよばれる、感覚受容器で、おいしさを感じる）

保護作用（粘膜というやわらかい組織で被れ、口の中を保護する）

修復作用（酸にとけやすいエナメル質を保護する）

洗浄作用（たばかすなどを、そこそこ洗い流す）

抗菌殺菌作用（だ液中の抗菌物質が、悪玉菌をやっつける）

PH緩衝作用（食後一時的に酸性になるが、だ液が中和してくれる）

潤滑作用（だ液の水分とムチンのおかげで、スムーズにのみこめる）

ウイルスの侵入防御（だ液の免疫グロブリンが感染を防ぐ）

ガン予防（だ液のラクトペルオキシダーゼ、アミラーゼ、カタラーゼによる抑制）などがあります。健康寿命伸延の意味でも唾液分泌はとても大事です。ご利用者ご家族や地域の皆さまと職員との「和」をしっかりと継続するためにもコミュニケーションやリハビリテーションといった広義の口腔ケアは重要ポイントです。皆さまの理解を深め、ご協力いただき、理想の口腔づくりにチャレンジしていきます。

特別養護老人ホーム あじさい園宝

○法人目標「和」について

私たちが暮らす日本においても、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナへの侵攻、自然災害など、世界中で起こる様々な出来事により、物価の高騰や人手不足をはじめ、経済は深刻なダメージを受けています。誰もが不安を抱えながら生きる時代であるからこそ、「和」の心を大切に、共に前を向いて一歩ずつ進んでまいります。

互いに手を取り合い、尊重し、支え合うという「和」の心と、気持ちが安らぎ、和める場所づくりという「和」の心を、職員一人ひとりが考え、サービス提供に活かします。令和5年4月には、新規事業としてグループホームあじさい園宝が開設いたします。晃宝会の強みである認知症ケア、口腔ケア、医療と介護の連携と基本理念を社会資源に還元し、地域の皆様に安心してご利用いただける施設運営に努めます。

1. 個室ユニット型施設としての個別ケアの充実

①ご利用者が望む暮らしが実現できるケアプランの作成と自立支援

ご利用者が抱える生活問題は一つではなく、複数存在します。健康状態、ADL、日々

の気持ちの変化など、生活全般の観察を通じた現況の把握と分析を行い、意思決定の機会が少しでも増えるようなケアプランの作成を目指します。また、ケアカンファレンスでは、他職種連携によって、より専門的、多角的な視点から意見交換を行い、ケアプラン作成に役立てます。特に、介護・医療・栄養・機能訓練において、専門職がご利用者お一人おひとりの状態を科学的に分析し、根拠に基づいたケアプラン提供を目指します。作成されたケアプランは、フロアの全職員へ周知徹底を図り、統一したケアの提供に努めます。

②24時間シートの活用

その人らしい暮らしを実現するためには、ご利用者の個々のニーズをしっかりと捉えることが大切です。今までの暮らしの延長線に施設での生活があることを理解し、お一人おひとりの生活リズムに寄り添う24時間シートを活用したケアの提供に努めます。安全で健康的な生活を送っていただくために、日常の記録とケアの提供の連動性にいつも気を配ります。

③快適な入浴及び排泄ケアの実践と清潔保持

入浴は、良い気分転換の一つであり、楽しみにされているご利用者が多いです。心身の状態に応じて小浴、機械浴といった入浴方法を提案し、安心、安全に入浴していただくことで、心身のケアに良い効果が期待できます。また、高齢者の多くは現役世代より活動量が低下するために睡眠の質が低下しやすい傾向にあります。入浴は、ご利用者にとって運動の代わりとなり、心地よい疲労感が自然な入眠を促し、QOLの向上につながります。そして、身体を洗って皮膚を清潔に保つことは、感染症予防や褥瘡予防にも効果があることから、介護職と医療職が連携して質の高い入浴ケアを行います。

ご利用者の排泄リズムに合わせたケアと、適切な排泄用品の選定をいたします。失禁率を減らせるよう、記録を分析・検討し、ご利用者の不快感と職員の負担軽減に努めます。質の高い排泄ケアを提供することで、夜間の睡眠を十分に確保し、健康的な生活を送っていただきます。また、トイレでの自然排泄が継続できるように、自立支援いたします。

④お一人おひとりに合わせた食事支援

管理栄養士による、献立作成により、お一人おひとりの健康状態に合わせた食事を提供いたします。栄養ケアマネジメントを実施し、ご利用者の日々の健康管理に、食事面でのサポートをさらに充実させます。低栄養のリスクを3段階で評価し、リスクが高いご利用者には2週間ごと、中程度のご利用者には4週間ごと、リスクが低いご利用者には概ね3か月ごとにアセスメントを行います。そのアセスメントに基づき、管理栄養士が介護職員とカンファレンスやミールラウンドを行い、摂食・嚥下の状態等を考慮した上で、食事形態をより細かく見直していきます。住み慣れた施設で最期まで穏やかに生活していただくためには、看取りケアを行う際の栄養ケアや食支援が非常に重要です。ご本人やご家族の意向を把握し、その人らしい生活を納得した形で送っていただけるよう支援いたします。

献立には手作りのメニューを多く取り入れ、ご利用者にとって毎日のお食事が楽しみ事になるよう支援いたします。ユニットケアの特徴を活かして、調理中の香りや、目の前での盛り付けなど、五感でお食事を味わっていただけるように、介護職員と

管理栄養士、調理員が連携して食事提供を行います。看取りケアの際も、無理なくご自分のペースでお好きなものを召し上がっていただき、最期までその人らしい暮らしが継続できる食支援を行います。

⑤「お口から食べる」ことができる口腔衛生管理

歯科衛生士による専門的口腔ケアや介護職員による日常の口腔ケア、口腔リハビリテーションを積極的に行い、口腔機能の維持・向上を図ります。LIFE システムへの口腔ケア情報の入力により得られたフィードバックデータの分析により、科学的根拠に基づく口腔ケアを実現いたします。当法人では、「口腔は人生の入口」であり、全身の健康管理に口腔ケアがとても重要であると考え、歯科医師による定期健診を実施し、必要に応じて歯科治療も行います。近年ますます、介護における口腔ケアの重要性が高まるとともに、従来の誤嚥性肺炎やインフルエンザなどの感染症予防という目的以外に、栄養管理のための口腔ケアという位置づけが広く認識され、栄養ケアマネジメントと口腔ケアの連携が重要課題であります。ご利用者ができるだけ施設での生活を継続できるように、法人の強みである歯科口腔領域の専門性をより高め、栄養ケアにも活かしてまいります。

⑥医療的ケアの充実

入居中のご利用者の平均年齢は年々高くなっており、ご利用者やご家族は病院ではなく施設での生活が安心して継続できることを望まれるケースが増えております。嘱託医を中心に、看護職、介護職が連携して日々の健康管理を行い、疾病の悪化への早期対応を行うことで、最期まで自分らしく住み慣れた場所で暮らしたいというご利用者のニーズに応えます。

また、多職種が連携して「看取りケア」を行います。その中で、しっかりとした医療知識と技術を職員が身に着け、医療的ケアの充実を図ります。

2. 清潔・安全・快適な生活環境の整備

新型コロナウイルス感染症の流行により、日々の感染症対策と清潔保持が、安全で快適な生活環境の整備につながることを実感いたしました。感染症対策は、初期対応が非常に重要であり、感染源をできるだけ持ち込まないように、多職種が連携してスピード感を持って対応いたします。

また、心身の状態に合わせた介護機材を整備し、職員一人ひとりが適切に使用、管理できるようにいたします。

- ①共用スペースの定期的な整理・整頓の実施
- ②共用スペースや居室の定期的な消毒の実施
- ③介護機材の定期的な洗浄、消毒の実施
- ④備品や家電等のメンテナンス
- ⑤感染症対応時の物品の確保、整理整頓の実施

3. 季節を感じていただける行事運営で潤いのある日常生活を

コロナ禍においても、ご利用者に社会とのつながりや季節感を感じる生活を送っていただけるよう、行事運営を積極的に行います。ご利用者に安心して楽しんでいただけるよう、オンライン介護予防教室や、ピアノコンサート、自治会のラジオ体操など、感染症対策に配慮した行事運営を行います。

4. 共に学び、成長できる働きやすい職場へ

介護職員に求められる知識や技術は年々高度になり、コロナ禍を経てさらに多くのことを学び、実践できる能力が必要であると実感しております。そこで、より質の高いサービス提供を維持・継続できる施設運営を行うために、引き続き職員の資格取得支援を充実させます。実務者研修修了や介護福祉士国家試験合格等、具体的な目標設定をし、スキルアップを目指します。令和4年度は、多くの職員が認知症介護基礎研修を修了しました。今後も、認知症ケアの質を向上するために、認知症介護実践者研修やリーダー研修の受講機会を増やすとともに、既に介護福祉士資格を有する職員については、ユニットリーダー研修や介護支援専門員試験等、キャリアアップにつながる資格取得を目指します。自ら学ぶ姿勢を持ち、なりたい自分になれる、長くやりがいを感じながら働ける職場づくりを目指します。

人材確保については、年齢や経験を問わず、働く意欲がある方を積極的に募集し、ともに学び、働きながら資格取得を目指すことができる環境を整えます。また、外国人技能実習生やEPA介護福祉候補者等の外国人人材を広く雇用し、共に学び、成長できる職場づくりを行います。

- ① ICTを活用した外部研修への参加
- ② 資格取得支援
- ③ コミュニケーション能力の向上
- ④ 丁寧で的確な言葉遣い
- ⑤ ライフスタイルに応じたシフト体制

5. 介護記録等のICT化

今年度より、ケアプランと栄養ケアマネジメントのより高度な連携とデータ共有を行うため、栄養ケアシステムと介護記録システムの運用を開始いたしました。記録のICT化を進めることで、外国人従業員を含む職員間での記録の標準化と作業時間の短縮をはかり、ご利用者とかかわる時間を今以上に増やします。

6. 地域と連携した災害対応の強化

自治会との合同防災拠点として、ラジオ体操などの地域行事の拠点として、ご家族や地域の皆様と、顔の見える関係づくりと施設運営を行います。令和5年度から地域密着型サービスのグループホームあじさい園 宝が事業開始いたします。コロナ禍においては、対面での情報交換の機会は減りましたが、運営推進会議や、広報誌「のこのこたより」を中心に、地域拠点として皆様に広く知っていただくための情報発信を行います。また、様々な災害時に“地域の安心拠点”となるよう、BCPを活用した関係機関との連携体制の確保、避難等訓練の実施を強化し、職員一人ひとりが地域資源であることを自覚して活動いたします。

7. 感染症対策の強化

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症のクラスターを経験し、初期対応の重要性を痛感いたしました。感染症発生時に職員一人ひとりが迅速に行動できるよう、委員会の開催、指針の整備、研修の実施とともに、感染症発生を想定した、訓練を定期的に実施し、組織としての機能を高めます。また、発生から収束までの一連の対応の振り返りを必ず行い、知識と技術の習得に努めます。

8. 短期入所生活介護と連携したご利用者の確保

申し込みから面接、入居までの流れをスムーズにし、新規入居者の確保に繋がります。また、ご利用者とご家族のニーズに常に耳を傾け、より質の高いサービス提供を行います。専門機関として、要介護、要支援を問わず、すべての介護保険利用者に適切な情報提供ができるように努め、電話や窓口対応を丁寧に真心込めて行います。そして、日頃より待機者情報を整理・更新し、満床継続と退居後の空床日数 14 日以下を目指します。

ショートステイ あじさい園宝

短期入所生活介護のニーズはさまざまであり、ご利用者お一人おひとり、ご家族ごとに利用理由は異なります。令和 5 年度法人目標『和』に基づき、あじさい園宝 短期入所生活介護は、自己決定の尊重、有する能力に応じた自立支援、ご本人のお気持ちに沿った支援に施設内の各職種、並びに関係機関と連携して取り組んでまいります。サービス提供に際して、ユニット型特養併設の特徴である『全室個室』を活かし、ご自分のペースでゆっくりとお過ごしいただけるように努め、これまでの暮らしの延長線上にあじさい園宝での暮らしの継続ができるよう支援いたします。面接時には、潜在的なニーズも含めて抽出し、解決すべき課題をあげ、個別の支援に活かします。短期利用においても、馴染みの関係の下で落ち着いた生活環境を提供することで、居室が暮らしの場となり、ご利用者様、ご家族様に安心していただけるよう職員一丸となって精進してまいります。

- ・ご本人、ご家族の心身の状態をより深く把握し、個別サービスの充実を図り、安心安全なサービス提供に努める。
- ・新規利用に際して、ニーズに応じた柔軟な対応を図り、最善の受け入れ体制を整える。
- ・在宅生活を継続できる柱になれるよう、ご本人の希望に沿い安全な介護、楽しい時間作りに努める。
- ・居宅介護支援事業所、医療機関との連携をはかり、ご利用者、ご家族が望む暮らしを継続できるよう支援する。
- ・事故防止、感染症対策を強化する。
- ・年間を通じ稼働率 80%以上を維持する。

グループホーム あじさい園

法人目標「和」について

ご利用者の立場になって何に困り、どういった暮らしを望んでおられるのかを考え、責任感と緊張感をもって仕事に取り組み職員一人ひとりの成長やプロ意識がグループ全体のレベルアップにつながるよう努めます。

勉強する気持ちを持ち社会の変化にも対応できるよう新しいことにも果敢に取り組んでみる。職員間の人間関係も、和を重んじ協力しあい仲良くしながらも時には厳しくもある調和のとれた関係づくりをしたいと思えます。

運営推進会議について

2 か月に 1 度開催しています運営推進会議はコロナ禍により電話などのリモート形式が中心になりました。地域のみなさまからはいつも温かく貴重なお言葉をいただき今後

も感謝を忘れずに地域に根差したグループホームであるよう努めます。

感染状況を鑑みて、オレンジカフェすいもんでの開催を予定しております。皆様と直にお会いして交流の場を持ち意見交換など行い今後活かしてまいります。

事故、感染症対策について

事故は起こりうるものですが、「仕方ない」という考えではなく常日頃からご利用者に安全で安心した生活を送っていただくよう努めます。何故起こったのか、その時のご利用者の心情や身体能力など今何に困っておられるのか、原因をしっかりと探る作業を怠らず、防ぐためには何が必要でどういった環境を整えなければいけないのか、意見やアイデアを出し合い早期に対応いたします。

コロナの感染状況も緩やかになりつつありますがご利用者の命や生活をお守りすることを第一に感染予防を怠らず、クラスターが発生した時の経験や反省を活かし一人ひとりが自覚を持ち体調の変化に敏感であること。陽性者が出たときの的確な初動対応ができるようにします。職員同士の確かな情報共有、各部署との連携も図ります。いつ起こるかわからないので常に感染予防に関する知識や備品の確認やストックも行います。

ご利用者に安心で質の良い生活を送っていただくには

現在グループホームでは要支援2の方から介護度5の方までご利用いただいています。それぞれのご利用者の入浴、排せつ、食事といった日々の生活をより丁寧な介護を心掛け小さな変化にも気づき、個性を大切にその人らしい生活をお支え致します。DVDを使った体操も定着し運動不足の解消や筋力低下の防止に努め、レクリエーションでは皆で和になってコミュニケーションを図り笑顔で脳や心の活性化につなげ楽しい時間となるよう趣向を凝らしていきたいと思えます。

いまだ、面会の制限をかけさせていただいていますがご家族にも毎月のお手紙を通じて必要なもののお願いや近況報告、緊急時には迅速で的確な対応により信頼関係にも努めてまいります。

新しくご入所いただく方にもこれまでの生活歴、バックグラウンドを重視し何を大事にされていたかに気を向け、環境の変化による不安や戸惑いも最小限に抑え安心感を持っていただきます。

デイサービス あじさい園

あじさい園デイサービスでは、ご利用者の心身の特性、生活背景を踏まえ、ご利用者が可能な限り居宅において生活できるように支援いたします。

ご利用者、ご家族、地域全体に目を向け、一人ひとりのニーズを的確に捉えられるよう、職員の意識向上、技術・知識の向上に努めます。

重点目標

稼働率向上を図る為、居宅支援事業所、包括支援センターとの連携を引き続き行います。

職員の意識改革、技術・知識の向上に努め、稼働率80%以上を目指します。

ご利用者、ご家族の満足度を重視し、アンケート調査やご家族との関わり方にも目を向け、心のこもったサービス提供を行います。

具体的なサービス内容

- ① 新規ご利用者への援助

ご利用者・ご家族のニーズをしっかりと聞き取り、一人ひとりに沿ったサービスを提案します。

② ケアプランに基づくケアの実施

評価を行い、問題点の解決に努めます。

③ ADL/QOLの維持向上・レクリエーションの実施

ご利用者が持つ能力を引き出し、その人らしい生活の実現に努めます。

④ 感染症対策

新型コロナウイルス感染症の対応については緩和傾向にありますが、培った知識を活かし、今後もご利用者が安心して過ごせるよう環境整備を行います。

⑤ 勉強会・研修の実施

ご利用者の思いが尊重され、穏やかに過ごして頂けるよう、職員の意識・観察力の強化を図ります。

定期的に勉強会を行い、技術・知識の向上に努めます。

法人目標「和」

コロナ禍が続き、今や当たり前のようになったマスク生活。ご利用者は「職員の顔がわからない」と話される方もおられました。少し寂しいように感じました。本来のコミュニケーションが取りにくい、そんな中だからこそ、気持ちや思いを読み取る力は重要だと感じます。あじさい園にいると穏やかだ、安心だと思って頂けるような環境を、まずは職員で作り上げ、そこからご利用者・ご家族・地域に広げていきたいと思えます。

ケアハウス あじさい園

令和5年度法人目標 「和」

職員はいつもご利用者の皆さんに、日々心穏やかに安心してお過ごし頂けるよう、お一人おひとりの心身の状態を良く理解し、ご利用者のプライドを傷つけないよう、やさしく声掛けし寄り添います。

職員とご利用者お互いの心が通い合うよう、和の心を大切に致します。

「今日も一日無事に終えられた」と寝る時に心がホッと落ち着く瞬間を感じて頂ける和の場となるよう努めてまいります。

1. ADLの低い方、認知症症状の進行している方、精神疾患を患っている方等、ご利用者それぞれの身体状況をよく理解し、変化や訴えに向き合い、いつまでも自立した生活が維持でき、安心して生活して頂けるよう、他部署、他事業所と連携を図り、個別ケアに努めます。

2. 脳トレーニングプリントや体操・散歩等のレクリエーションをする機会を多く持ち、ご利用者の気分転換と心身共に活性化を図ります。

3. ご利用者は、平和な世の中を築き上げてきた人生の大先輩として、尊厳と親しみを持って接します。

4. 職員はいつも的確な判断で対応できるよう介護力を高めるための研修を行います。

5. 月平均利用者数27名、稼働率90%を目指します。

居宅介護支援事業所

法人目標「和」を踏まえ、ご利用者、ご家族、一人ひとりに寄り添った支援が行えるように下記の点に力を入れ支援提供に努めてまいります。

① 在宅生活継続への支援について

生活課題を分析し、ご利用者とそれを支えるご家族がその解決に主体的に臨める計画提案に努めてまいります。

② ご利用者の尊厳を守る

援助関係においてご利用者の人権を守ることだけでなく、同時に地域社会・家庭においても人権を侵害されることのないように配慮し、ご本人の最も身近な代弁者であることを常に心に留め、提供されるサービスなどが特定の種類、または特定の居宅サービス事業者に偏ることのないように公正、中立の立場を保ちます。個人情報の取り扱いは、厳格な管理の下で行います。

③ 医療ならびに各関係機関との連携と協働について

各関係市町村の保険者、地域包括支援センター、他の介護保険施設ならびに介護保険事業所、医療機関との連携に努めます。

④ 職員の資質向上について

I C Tを活用したオンライン研修、自らの対人相談援助技術の向上、ならびに高齢者支援に関する自己研鑽に努め、介護支援専門員同士が協力して事業所内の質の向上を目指します。介護支援専門員同士のつながりを大切に、包括支援センターや地域の関係機関との地域ケア会議に参加し地域の問題を共有、地域貢献に努めてまいります。

⑤ 事業所運営の安定と拡大について

柔軟に新規の受け入れを行い、給付管理件数を伸ばし、安定した運営が行われるように努めてまいります。事業所としての平均担当件数は一月あたり 70 件を目標とします。(常勤換算二人)

⑥ 感染症対策について

新型コロナウイルス等、感染症の拡大防止に努めます。

今年度法人目標「和」について

「和」には互いに相手を大切にし、協力し合う関係にあることを意味します。ご本人の望む生活、暮らしが実現、到達する過程の中で私たち介護支援専門員は各事業所と協働連携しながらお互いを知っていきます、その積み重ねが信頼関係を築き、「和」をつむぎあげていきます。

ご利用者を取り巻く多職種のチームアプローチが上手く機能できるようにお互いを尊重し合う、気軽に情報交換しあえる環境がつけられる居宅介護支援事業所であるように常に「和」を心に留め支援に従事してまいります。

オレンジカフェ すいもん

法人目標 「和」

オレンジカフェすいもんは、世界遺産である東大寺大仏殿から南西へ徒歩3分、豊かな自然に囲まれた奈良公園の中にあります。掘りごたつのある和室、明るい洋室、かやぶきの離れなど、それぞれのお部屋のしつらえや、お庭の手入れをボランティアさんとスタッフが一緒に相談しながら季節ごとに整え、お客様に古都奈良の落ち着いた雰囲気を楽しんでいただいています。地域住民の皆さま、カフェを楽しみたい方、どなた様も気軽に立ち寄れる安らぎの場、交流の場となっています。歴史を肌で感じながら、安心できる空間でリラックスしたり、お仲間との交流を楽しんだり、活動を通して元気になったり、新しい出会いがあります。

①感動と笑顔で心はポカポカ

認知症家族の会主催の「しゃべり場」、田原地区新鮮野菜販売、介護予防体操、クラフト教室、手作り教室、お茶会、二胡教室、チェロ教室、哲学講座、運営推進会議等、コロナ禍ですが、感染対策をしっかりと行い、できる範囲で活動を継続しています。

②パティシエ手作りのおいしいケーキ

ガトーショコラ、スフレチーズケーキ、シフォンケーキ、アーモンドケーキ、ババロア、ショートケーキ、レモンケーキ、テイラミスクッキー、アップルパイ、フルーツロールケーキ……。パティシエ手作りの楽しいケーキを日替わりでご用意しています。

③懐かしさとパワースポット

掘りごたつのある和室では懐かしさを体験、季節ごとのしつらえや、明治ガラスからゆらいで見える庭も楽しめます。梅、桜、柿、栗、ゆず等、大きな木や四季折々の草花、パワースポットもあります。

「感謝・機転・謙虚・笑顔・清潔」を基本理念とした社会福祉法人晃宝会の地域貢献事業の一環として認知症カフェの運営をして、晃宝会として認知症予防への取り組みを一層強化し、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる共生社会を目指しています。認知症は多くの人にとって身近なことであると互いに理解し、運動不足の改善、生活習慣病の予防、社会参加、孤立の解消、役割保持を自然に実現できる「和」づくりをしていきます。

ニコニコタクシー（介護輸送サービス）

法人目標 「和」

- ・地域包括ケアシステムをすすめる中で、奈良市東部山間地域における在宅での生活を支えるためには、タクシー事業はととても大切です。要介護支援者、要介護度者、さまざまな障がいをお持ちの方が、ひとりでは公共交通機関を利用することが困難な方にご利用いただきます。サービス提供者は全員ホームヘルパー2級・2種免許の有資格者で、安全・安心なサービスを提供いたします。
- ・ご利用者の尊厳を守り、お一人おひとりの気持ちに寄り添い、悩みや困り事、心配事等、会話の中から汲み取り、介護支援専門員や医療、福祉、保健等の専門職との連携をスピーディーに行いサービスを提供いたします。ご利用者の気持ちにしっかり寄り添い、「和をもって貴しとなす」と思いつつ地域共生社会の実現に積極的に取り組んで

まいります。

- 新型コロナウイルスの感染予防対策をしっかり行い、ご本人やご家族から信頼をいただけるよう、また地域の皆様に常に安心を提供すべく努力し、信頼関係を構築し、できる限り迅速に対応します。
- 急発進や急停車に気をつけ、制限時速を守り、安全・安心な運転をいたします。

ハーネ 中御門

法人目標「和」

1. はじめに

障害者グループホーム「ハーネ中御門」は令和5年2月に1周年を迎えるとともに、2月1日に10人目の利用者様が入居され、男性5名、女性5名満床としてのスタートを切る事が出来ました。

法人目標である「和」は、穏やかに、仲よく、調和などの意味を持ち、障害福祉の目指す、“障害の有無に関わらず、一人ひとりが尊厳のある個人として認められ、安心して生活していくことのできる社会”の実現の上で私たち支援者の意識として大変重要なことです。

ハーネ中御門では多様化、増大化する障害福祉ニーズへの対応として、具体的な自立支援のサービスを提供するために、単なる生活支援だけでなく、できる事や分かる事に着眼し、ご利用者が自己決定できるようにサポートしていく“ハーネの色”を大切にし、協働していくよう努めます。

2. 職員配置（令和5年2月現在）

1. 管理者 1名
2. サービス管理責任者 1名
3. 世話人兼生活支援員 8名（内、現場主任1名）

3. 支援内容

ご利用者一人ひとりの個性、志向を尊重し、支援します。

プライバシーには十分配慮します。

- ・ご利用者一人ひとりとの対話を大切にし、日々のご様子を職員間で共有します。
 - ・個々のニーズ・課題に沿った個別支援計画を作成し、定期的にモニタリングを行い、次の支援につなげていきます。
 - ・ご家族や関係機関との連携を大切にし、気になったこと等を気軽に相談していただけるよう信頼関係を築いていきます。
- ご利用者の思いや心身の状態を共有し支援に生かしていきます。
- ・日常生活上の洗濯、掃除、入浴、食事摂取、歯磨き等において、一人ひとりの状態を観察し、エンパワーメントを引き出す支援を行います。
 - ・誕生日や季節行事の際、主に夕食時に工夫をし、楽しみ、季節を感じて頂けるよう努めます。

4. グループホーム内の計画と職員研修計画

各委員会を設置し、できるだけ実情に合った研修を行います。

また、月1回以上職員会議を行います。

月	季節食・行事	会議・研修予定
4月	誕生会	職員会議 個別支援計画と個別支援記録についての研修
5月	節句	職員会議

6月		職員会議 虐待防止・身体拘束等の適正化の為の対策研修
7月	誕生会	職員会議 個別支援計画会議
8月		職員会議 災害対策研修
9月	誕生会	職員会議
10月		職員会議 事故防止研修
11月		職員会議
12月	誕生会　クリスマス会	職員会議 感染症・食中毒予防及びまん延防止対策研修
1月	誕生会　お正月	職員会議 個別支援計画会議
2月	誕生会　節分	職員会議 事例研修（成年後見制度について等）
3月	誕生会　ひな祭り	職員会議